

主な活動の紹介

○中学生ボランティア活動の推進

地域の活力は「若い力」であるとして、中学生を対象にした地域ボランティア団体「ふるさと発見クラブ」は、19年目を迎えています。「久保公民館ふるさとまつり」でのバザー販売やゲームの補助、「さんさ踊り大会」での会場準備や司会進行など、大人と一緒に活動することで、地域全体が一体となり充実したまちづくりにつながっています。同時に、学校と地域が連携し、支え合う形で、生徒の健全育成にも役立っています。



久保公民館ふるさとまつり

○「たくましい久保っ子放課後子ども教室」の運営

平成23年度より放課後子ども教室推進事業の委託を受け、週休日に久保公民館などで、開催しています。地域の特徴を生かし、自然体験や伝統芸能、文化的な活動などを取り入れ、ふるさとを愛する子どもの育成をめざして、地域の住民が講師やスタッフとなって活動をしています。



豊かな自然の中で田植え体験

○伝統芸能・文化の継承

久保地区には、県の指定無形民俗文化財「切山歌舞伎」を始め、「来巻神舞」「松風太鼓」「どんど焼き」「さんさ踊り」などの伝統芸能・文化が残っています。こうした久保地区が誇る伝統芸能・文化を継承する人材の育成と、その活性化につながるような活動が求められており、学校と地域が協力しながら、子どもが興味をもてるような体験教室や、生涯学習フェスタなどでのPR活動を行っています。



切山歌舞伎体験教室

成果と課題

本年度、久保中学校では「地域協育ネット担当者」を校務分掌に位置付け、推進体制が整えられました。また、「たく保」が推進する中学生のボランティア活動のしくみは「下松市地域協育ネット協議会」を通じて、市内の他の中学校にも広がっていきました。このように、今までの推進体制や取組を生かしながらその拡充を図ることで、着実に成果があがっています。

課題としては、幼児期の子育て支援と今後どのように連携していくのか、また、放課後子ども教室への中学生ボランティアの派遣検討や「久保中学校区小中連携教育協議会」との連携など、幼児期から中学卒業までの子育て支援体制の構築があり、地域の実態に応じて方向付けをしていく必要があります。

今後の取組

久保中学校区は、昔から地域のコミュニティ活動が盛んで、公民館などを拠点としながら、学校・家庭・地域が一緒になって様々な取組が行われてきた地域です。現在は少子高齢化社会であり、その支え合いの重要性は益々高まっているところで、これまでに培われた地域のつながりを見直し、また結び直して、学校・家庭・地域の連携が更に円滑に行われるよう、人と人、組織と組織をつなげていく、ネットワークづくりを進めていく予定です。